
CONAN`SDIARY (コナンの出来事)

たくみ226

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CONAN、SDIARY（コナンの出来事）

【Nコード】

N0946B

【作者名】

たくみ226

【あらすじ】

この話は、コナンはじめ少年探偵団が、阿笠博士から渡された1冊の変わった日記帳から始まる・・・

ブローグ

コナンは、いきなり日記をつけることになった。
その理由とは……

阿笠邸

そう、いつものように、少年探偵団＆コナン・灰原でいた。

歩美「ねえ、哀ちゃん。これって博士の発明品？」

哀「……多分。」

歩美と哀の目の前にあったものとは……イルカ型の機械だった。

哀「博士。何してるの？」

阿笠「おお、哀君と歩美君か？これはな、なずけて、イルカ形水泳補助機じゃ。」

哀「またそんなもの作って……」

歩美「いるかがたすいえいほじょき？」

阿笠「そうじゃ。これはじゃな……とにかく動かそうかのぉー」

『ポチツ……』

『ウーーン……ガシヤガシヤ。』

阿笠「あれっ……」

そう、せっかくの発明品だったが、なんだかのミスで壊れてしまった。

阿笠「……みんないるかね？少年探偵団の。」

歩美「いるよ。みんなでゲームしてる。」

阿笠「みんな。ちょっと来てくれんか？」

コナン・元太・光彦「は？・・・いいけど・・・」

そう言っていると、阿笠博士は、自らの実験室に集めた。

阿笠「みんな、これを使ってくれ。」

元太「これ何だ？」

阿笠「今から言うわい。これは、日記帳だ。」

歩美「日記帳？これが？」

阿笠「そう、この日記帳。これは、普通の日記帳と変わらない大きさじゃが、最新技術の電子ペーパーなんじゃ。」

元太「博士、これくれるのか？」

阿笠「君達には、実験をしてもらう。この日記でどれだけ書けるか。」

「

歩美「私、やってみる。」

光彦「僕もします。」

元太「おい、光彦・・・オレもするぜ。」

阿笠「コナン君と哀君もしてもらおうか？」

コナン・哀「えっ・・・」

歩美「コナン君と哀ちゃんも当然するよね？」

コナン「エッ・・・分かった・・・やるよ。」

哀「そうね、しょうがないわ・・・やるわ。」

こうして、少年探偵団は日記を書き始めた・・・

プロローグ（後書き）

こんにちは、たくみ226です。

今回、今までと変わったジャンルでしてみようと思います。まあ、事件とかは少ないと思うんで平和なほうです。

CONAN、SDIARY（コナンの出来事）なんて題にしましたが、多分、少年探偵団の日記も出てくると思います。

1日目

<コナンの場合・・・>

コナンは毛利探偵事務所に帰ると、嫌々ながら日記を書く事にした。

コナン「ったく・・・まあいいか。どうせ今日出された算数の宿題なんて休み時間で終わらされちまつたし・・・やってみようか。」
そういうと、コナンは1日目の欄に書き始めた。

- - - - -

(一日目)

今日は、学校の宿題を早く終わらせたので、その後推理小説を読んだ。

小説を読んでいる間におっちゃんは目暮警部から電話があったので、おっちゃんについていくとそこには殺人事件があった。被害者はオレと同じくらいの高校生で、密室殺人だった。結局おっちゃんはいつも通り推理が出来なかったので、代わりにオレが解いてやった。それにしても、本当に犯人がその彼女がしたものだっただなんてなんて悲しいんだろうね・・・

- - - - -

阿笠「新一のやつ。ちゃんとまともな事書いてるなあ・・・書いてくれんと思った新一が書いてくれたのはいいが、ほかの子は大丈夫なのかの？」

<哀の場合>

哀「まあいいわ・・・これやってみようかしら。それにしても博士
ったら、こんな高そうな物を学校に売って日記帳とか他の提出物ノ
ートにするつもりかしら？」

そついうと、哀は（１日目）の欄に書き始めた。

- - - - -

（一日目）

今日は宿題が終わったので、薬の研究をした。
それにしても、やっぱり難しいわね・・・

- - - - -

阿笠「やっぱり・・・哀君は心をあまり開かんかなあ・・・この日
記がわしに見られていることを言わずにしておけばよかったなあ・・・
まあ、哀君なら簡単に見抜けただろうが・・・」

<元太の場合>

元太「まあ、このノートは専用のペンで書けるからいいものの、パ
ソコンみたいだったら何も出来なかったなあ・・・」

そついうと、元太は１日目の欄に書き始めた。

- - - - -

今日は父ちゃんと母ちゃんの店の手伝いをした。

- - - - -

阿笠「やっぱり・・・まあいいか。」

< 光彦の場合 >

光彦「博士もこういうまともな物を作るんだなあ・・・まあ、やってみましょうか。」

そついうと、光彦は1日目の欄に書き始めた。

- - - - -

今日は、しゅくだいを5分でおわらせた。

きのうの10分とは同じドリルの同じ2しよこの1ページでも、このじかんおかりようはおおちがいだった。どっちも100てんだったのでぜんもんせいかいできてよかった。

- - - - -

阿笠「ははっ・・・。光彦君はあのちよつと子供離れした考え方だと、黒の組織に入ったりしたら、哀君と同じ科学者になれるかもな・・・。彼を平和利用して、光彦君にわしの才能を教えたら・・・」

『光彦「博士のおかげでノーベル賞を取れました。」』

阿笠「そうかそうか。でも光彦君が頑張ったんじゃああらな・・・」
光彦「博士のおかげですよ。もしあの時少年探偵団に入っていなかったら・・・もし博士に会ってなかったら・・・たぶん僕はこんな嬉しい人生を歩めなかったかもしれません。」
なーんてな。ハッハッハッハッ・・・」

< 歩美の場合 >

歩美「博士からもらった日記、書いてみよう・・・」

そついうと、歩美は1日目の欄に書き始めた。

- - - - -

きょうはあさ、しいくごやにいきました。

私は哀ちゃんといっしょにうさぎさんのせわをしました。

あいちゃんは大人っぽいけど、どつぶつさんといっしょにいます
きはとってもたのしそうにみえた。

- - - - -

阿笠「やっぱり何一つ疑われない子供はいいのう・・・」

こうして1日目を全員書いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0946b/>

CONAN`SDIARY（コナンの出来事）

2010年10月11日19時30分発行